

ご挨拶

第22回分子予防環境医学研究会を東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館にて開催します。今回のテーマは「実験衛生学再考・興」です。歴史を振り返ると、創成期の衛生学が当時の最先端の科学を基に社会に介入し、疾病予防を実現してきたことがわかります。1980年代以降、分子生物学、細胞生物学は医学を大きく変えました。臨床医学が疫学と実験医学の両方を用いることで新しい治療医学を大胆に実現していることは注目に値します。一方、衛生学・社会医学が新しい生物学の導入において最も遅れた医学分野となってしまう現状は否定できません。創成期の衛生学・社会医学の歴史から学ぶとともに、現状と課題を直視し、衛生学・社会医学に対する社会的、学術的要請に応えるための戦略を立てる必要があると考えます。

今回、分子予防環境医学研究会と長く連携をしてきた日本衛生学会、日本産業衛生学会において活躍されている研究者および毒性学、実験医学を基盤にした欧州プロジェクトを推進している英国労働医学研究所の研究者を招き、衛生学・社会医学における実験医学の役割を明らかにするための議論を行います。

皆様の本研究会および議論への参加を歓迎します。

令和5年1月吉日

第22回分子予防環境医学研究会大会

大会長 市原 学

(東京理科大学薬学部 環境労働衛生学)